

## 令和元年度第1回 鹿屋市高齢者保健福祉推進協議会 議事録

日 時：令和2年2月7日（金）14:00～15:20 場 所：鹿屋市役所3階 全員協議会室

会長選出	会長として、宮下 昭廣 委員（鹿屋市社会福祉福祉推進協議会）を選出。 その職務代理者として 渡邊 正人 委員（鹿屋市民生委員児童委員協議会）を指名。
議事内容	報告(1)－① 鹿屋市の介護保険の状況について
主な質疑	<p><b>Q</b> 平成30年度のケアプラン点検数は88件となっている。市役所の点検する人員体制は、かなり厳しいと思うが、どのような戦略があるのか。</p> <p><b>A</b> これまで目標達成に向けて体制を整えつつ行ったが、このような結果となってしまった。来年度は、再度、検討をして目標にできる限り近づける努力をしていきたい。</p> <p><b>Q</b> 男性の介護サービス利用率は全体の3割程度で、中重度認定者が増加しているが、特定検診を受けていないことが関係するのか。</p> <p><b>A</b> 特定検診との関係性は定かではないが、今後できる対策があれば実施していきたい。検診に関心の薄い方の治療が遅れて重度化してしまい、高齢化を迎えている。どうにもならなくなってから、介護認定を受ける方が相当数いると思われる。若いうちから検診を受け、健康に留意する啓発活動を重視していかないと介護保険の軽減には繋がらないと思っている。</p> <p><b>Q</b> 次期計画の策定にも、介護認定者の重症化させないための予防施策が必要だと思うが、どのような対策を考えているか。</p> <p><b>A</b> 介護予防は高齢になってからでは遅い。若いうちは仕事が忙しく、健康づくりへ意識を向けられないのが課題であると思う。検診を受けたりして健康管理を徹底していく必要がある。健康増進課や、その他関係課等と総合的に進めていかなければならないと考えている。</p> <p><b>Q</b> 要介護認定や認定率は上昇していくと思われるが、国・県と比べてサービスを含め需要があるのか。それとも認定の手法等について、若干の甘さがあるのか。それらの分析が済んでいれば、教えていただきたい。</p> <p><b>A</b> 認定率は少しずつ減少している状況にあるが、他市との比較は次期計画策定の分析時に見ていきたい。認定の手法等の甘さについては、特に感じていない。</p> <p><b>Q</b> 鹿屋市は県内の中で、介護保険料が高い位置で推移しているが、今後、低くなる見込みがあるのか。</p> <p><b>A</b> 給付費は増えている状況なので、この伸びをいかに鈍化させるか、若しくは減少させるかが重要であり、介護事業所や医療機関にも協力をいただき、次期計画の大きな目標としたい。ですので、多少なりとも介護保険料は高くなると予想される。</p>

議事内容	報告(1)－③ 地域包括ケアシステム構築施策の実施状況について
主な質疑	<p><b>Q 移動支援について、利用者の男女別、年齢層についてはどうか。年齢層は高いか。</b></p> <p>A 年齢は60歳を超えた方もおり高いです。ただ、鹿屋地区については20代の女性が利用された方もおり、興味を持たれている方もいる。既に地域の助け合いで取組んでいる方も受講されており女性も多いです。</p>
議事内容	報告(2) 鹿屋市高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画の策定及び高齢者実態調査等の実施について
主な質疑	<p><b>Q 今回のアンケート調査について、設問数が多いとか、もっと内容を簡単にしたい等の苦情はなかったか。</b></p> <p>A 直接、窓口へ来ていただいて職員が聞き取りながら調査を行ったことはあるが、特にそのような意見は聞いていない。今現在のアンケート回収率は65パーセント程となっているので、大勢の方に御協力いただけたのではないかと思う。設問数については県から示されており、必須項目も多いため相当数となってしまう。調査にかける負担が大きいことは承知しているが、ぜひとも協力をお願いしている。</p> <p><b>Q 介護人材の実態調査を実施しているが、次期計画に介護人材の確保について、市がどのように考え対策していくか記載して欲しい。実態調査で現状を把握するだけでなく、事業所の支援に努めてもらいたい。また、日常生活圏域毎に設置されている小規模多機能型居宅介護や定期巡回・随時対応型訪問介護看護について、利用状況や在宅生活を支えられているかを把握し、次期計画で不足の有無の判断をして欲しい。</b></p> <p>A 要望ということで承知いたしました。</p>